

2014年、下島恒太は株式会社日本土地建物に入社した。以前も不動産業界で働いており、賃貸物件のみを扱う会社やワンルームの物件に特化した会社などで営業の経験を積んできた。入社6年目を迎える下島に仕事への向き合い方や今後の課題について話を聞く。

情報収集と 迅速な対応の成果

日本土地建物は1都3県にわたりアパートやビル、マンション等の物件を広く扱っており、前職場以上に様々な経験を積むことができるという点に下島はやりがいを感じている。

入社から4年が経った頃、下島は仕事で大きな成果を上げた。比較的築年数の新しいワンルームの物件の取り引きで大きな利益を生んだのである。下島は有効な情報を交渉の材料とし、相場よりも安く取りをするよう心がけている

経験こそが宝

日本土地建物では中古の物件を扱うことが多く、物件の購入前には仲介業者とリフォーム代等の費用

価で物件を購入し、高値で販売することができた。
毎日物件情報が入ってきては査定をおこない、その中で購入できるものが1~2件。物件の情報は業界に広く出回るので、他社と競合して成果に結びつかないこともある。仲介業者が速やかに物件の精査や対応をおこなえるかも重要な力ぎを握る。情報の鮮度や仲介業者との迅速なやり取り等、種々の好条件が重なることで大きな結果を得ることができるのだ。

そのためには、日々の営業活動を通じて、仲介業者との信頼関係や情報網を構築しておくことが求められる。限られたチャンスを活かすため、下島は幅広い仲介業者とやり取りをするよう心がけている



営業推進部 サブマネージャー

しもじまこうた

下島 恒太

用について相談をする。物件を細かいところまで見ておかないと、リフォーム代がかかった割に物件が予想したほどに高く売れないという失敗を招いてしまう。

下島も過去に自己の経験不足から費用の見積もりを見誤り、十分な利益を得られず、苦い思いを味わった。「扱う物件の特徴や販売の対象を精査しきれていたかった」と、当時を振り返る。アパートかビルなのか、購入者が実際に住もうとする物件か、投資目的で購入する物件なのか、具体的なイメージを描いて行動しなくては大きな成果には結びつかない。そのためにも、それぞれの物件に応じた経験を積むことが大切だと考えていたのだ。

サブマネージャーとして

営業担当者と共に通していくことだが、下島の仕事は仲介業者とのやり取りが大部分を占める。具体的には仲介業者を訪問し、物件

の売買に関する情報交換や取り引きに関する打ち合わせ、物件の査定などをおこなう。普段、チームで営業活動をおこなっている下島は、物件の中でも10億円未満のものを探っている。

そのほか、チームの中にいる新卒採用者の教育も担当。仲介業者とのやり取りの仕方を指導するほか、具体的な売買に話が進むと、契約や決済についてのフォロー、必要に応じて書類のチェックに至るまで、幅広く対応が求められるのがサブマネージャーの仕事である。

あるという。
職場がよい環境であることは望ましいが、業績を伸ばしていくためには社員一人一人の意識の高さと行動力が求められる。今後も未経験の社員が入社していくことを考えると、若手を育てることでできるリーダー候補となる社員を育成していくことが会社の成長のために必要不可欠である。下島個人としても、市場の動向を学び、さらに経験を積むことで、定期的に物件の取り引きができる力を養っていきたいと語る。若い社員を育てあげ、会社全体の営業力を高める中で、自身もさらなる成長を目指すという下島。今後の活躍に期待したい。

会社と共に成長し続ける

日本土地建物の社員の平均年齢

は30代前半と若い。営業活動で成り立つ会社ではあるのだが、職場で罵声が飛び交い、売り上げ目標の数字に絞めつけられるようなことはない。若い社員、とりわけ新卒採用で未経験の社員にとっても、周間に相談しやすい雰囲気が

企業情報

設立年：2003年8月
年商：32.2億円

※2019年4月時点



